

<教科に関する調査結果(学力調査と生徒質問紙)から>

国語・数学の各教科とも平均正答率が奈良県・全国の平均を上回っています。基礎・基本となる学力の定着ができているとみられます。特に知識・技能の観点に当てはまる問題について、高い正答率でした。

【国語】

国語の授業で、考えたり、表現したりしながら学びを深め合っていると感じている生徒の割合が多く見られます。

漢字の読みや語句の意味など基礎的な知識を問う問題については、正答率が高くなっています。また、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題の正答率も高くなっています。これは、自分の考えを書く活動を積極的に行い、自分の考えを整理する過程を可視化するという取組の成果と考えます。

一方で、文章中から問題文に則った表現を適切に引用できず不正解になっていることから、自身の考えを書く活動を継続して取り入れつつ、自身の考えを書くことが苦手な生徒たちへの個別の支援を充実させることが今後の課題と考えます。

【数学】

表やグラフから必要な情報を適切に読み取るなど、数学的な技能の観点に当てはまる問題について、高い正答率です。授業で、ICT機器を利用し、表やグラフを視覚的にイメージできるようになる取組の成果と考えます。

授業の中で、「公式やきまりについて、そのわけを理解するようにしていると考えている」、「分からないとき、いろいろな方法を考えることができている」と回答した生徒が多く見られる一方で、「問題解決の方法を数学的に説明する」、「判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」などを苦手とする生徒が多く、一般的な事象を数学的に解釈し、考えていく力を養うことを今後の取組の課題と考えます。

<生活・行動や考えに関する調査結果>

- 「朝食を食べている」や「毎日同じくらいの時刻に就寝・起床している」などの基本的な生活習慣についての項目では、9割以上の生徒が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答しています。きちんとした生活習慣が身についているようです。
- 他者を大切にすること、いじめは絶対に許せない、人の役に立ちたいと考えている生徒が多いです。周囲を見渡しお互いを認め高め合う活動や道徳の授業を充実させてきた成果と考えます。
- 家にたくさんの蔵書がある生徒が多く見られる一方で、半数近くの生徒がほとんど読書の習慣がないと回答しています。1日当たりの読書時間が短く、図書室・図書館の利用も少ない傾向があります。学校では図書室の開室する日・時間を増やす取組を継続し、読書の機会と時間が増えればよいと考えます。
- 「将来の夢や目標を持っている」とする生徒の割合が低く、将来の自己実現に向けた道筋が把握できにくいことが「自分で計画を立てて勉強する」生徒の割合が低くなっていることと関係するように考えます。その一方で、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と考える生徒が多く、引き続き、さまざまな体験活動を通して、自己有用感や自尊感情を高められるような取組を続けていくことが大切だと考えます。